



うだのみくまり

通巻第54号

《新春輯》

〈発行者〉

宇太水分神社
神徳宣揚奉讃講

この拝殿と共にこれからも…

この度、高齢の父を継いで宇太水分神社第十
九代宮司を、令和七年十二月二十日付で、神
社本庁より拜命致しました。

素より浅学非才の身ではありますが、崇神
天皇の勅祭社であることを鑑み、この上は只
管にご神威を畏み御神徳の高揚とご社頭の隆
昌に努めてまいります所存です。

何卒格別のご指導とご鞭撻を賜りますよう
お願い申し上げます。

ところで私が生まれる凡そ一年前、昭和四
十七年九月十六日の台風二十号により、当社
は甚大な被害に遭いました。三棟からなる国
宝本殿は、中央の第二殿が高野槇の倒木で傾
きました。能舞台形式だった拝殿は、大樑が
折れたことにより、完全に倒壊する有様でし
た。鎮守の杜の中も、数多の杉檜が倒木した
…と、伺っております。

昭和三十五年にも造営しており、それから
僅か十年余りで災害復興造営をせざるを得ま
せんでした。現在も氏子総代をされている方
のご尊祖父様が、造営委員長となつて下さり、
私が生を受ける前月の同四十八年九月三十日、
奉告祭の斎行と相成つたのであります。

本殿に関しては、国庫金を賜つての御修理

私儀ですが、その当時大勢おられた古市場の大工
が集われ、力を合わせて立派な拝殿を建造さ
れたのであります。斯様なことから、拝殿と
私は同年ということになるわけであり、
その経年からくる風雨日照による古色の進行
に、自身を照らし合わせてみると、恥ずかし
くなる思いであります。

傾いた第二殿は、当時解体修理がなされま
したが、それを含め三棟は、令和元年創建七
百年を寿いだところであります。県下国宝指
定本殿は、春日大社と当社のみで、また宇陀
の式内大社でございます。

幼少時より、その重圧を感じながら育ちま
したが、神職になり奉務をしておりますと、
それは具体的なかたちを以て、身に染みてお
ります。

水は近年、愈々重要な問題となっており、
それを均等に配られるご神徳と、遠近各地か
らの崇敬を想うと誠に忝くなります。半面、
度々小紙で触れているように、人口減少の止
まらない氏子地域でもあります。

数々の難題を解決する方策を、真剣に探つ
てくださっている氏子総代方に支えられて、
宮司としての歩みを始めていきたく、宜しく
お願い申し上げます。

頌 春

令和八年 丙午歳 元旦

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
本年も全国水道事業の発展とこの事業に携わる
みなさまが健やかにご活躍されますことを祈念い
たしております。

宇太水分神社

宮司 三家 邦彦
氏子 総代 一同

葺き替えが急がれる 瑞垣屋根

昨年五月二日、伊勢の神宮では、第六十三回式年遷宮の始まりを告げる祭儀の山口祭及び本祭が斎行された。続いて六月には、御杣始祭などが続いて行われていき、本年からのお木曳行事へと続く端緒が開かれた。先ずはその御用材を確保する営みがなされていくのであるが、大量の檜の木材は棟をいたで御正殿などの建物に用いられるだけではない。

その聖なる御敷地は広大な面積であるが、それを取り囲む垣が廻らされていく。然もそれは四重と斯くも嚴重な側から、板垣、外玉垣、内玉垣とあり、御正殿を直接囲んでいるのが瑞垣である。

それらの垣を造作するための御用の檜材だけでも、想像を絶するくらいに量が必要となると拝察する。

一般の神社にあつては勿論のこと、大社にあつても、本殿を囲んでいるのは、恐らく瑞垣のみが大勢だろう。翻つて境内に、本殿のみが据えられていた例は稀であろう。例えば、近年国宝指定された京都市・祇園八坂神社本殿は、内陣を取り巻くように拝礼空間が一体化しているためそれが無い。そうした例は散見できるほどのことから、寧ろそうしたお社は、深く印象に刻まれるように思う。

昨年本稿では、二ノ鳥居を大修繕したことを取り上げた。鳥居は外部と神域の境を示す結界であることをお伝えした。瑞垣は神社の中核をなす本殿を囲むわけであるから、最も聖なる場所に接している故に、更に重要な構造物であると思つてゐる。

さて、当社の瑞垣である。国宝の本社本殿三棟及び重要文化財指定の摂社春日神社・宗像神社社殿を、背後に鎮守の杜があることから、三方より囲ん

でいる。当社に遺る、恐らく大正時代に撮影されたと思しき社殿の写真があるが、それは瑞垣が取り払われた状態で酷く荒廃した姿で写っている。それでも存在していたと想定するとして、本殿の大修理が行われた後、改めて築造されたものが、現在に伝えられたのであろう。

五棟の本殿が作る棟と千木のラインと絶妙な高さで、本社第二殿と摂社春日神社前に設えられた中門を交え構成されている瑞垣は、キリツと神域を引き締めている。

その檜皮葺屋根は、一面で触れた台風による復興造営より遅れること十年後の昭和五十八年に葺き替え、四十年以上が経過し傷みが著しくなっている。堅牢な間隔は狙われることはないが、腐食が進んでくると、境内に生息するムサビの格好の巣材として選ばれ、野地が現れる程に持ち去られていく箇所がある有様である。

これ以上傷みの進行を止めるには、葺き替えるしか術がないのは言うまでもないことである。しかし本殿は国庫金で大方賄えるが、付属建造物は所有者負担が基本である。ついでには近い将来に工事を実施する方向で、参考見積だけでも凡そ二千万円を要することがわかった。この機会にと丹塗りの塗装なども含めると、更に大幅に嵩む額が示された。

それは虫歯を放置しておくと、酷くなり痛みが増すだけで、治らない如き喩えで、既に瑞垣屋根は猶予のない状況に至っている。それは即ち、歳月が経過すれば工費が更に増すばかりであることになる。しかし様々な要因から苦境にある氏子地域である。責任役員はそのような状況を懸念され目下、財源の見通しを熟慮されているところである。

伊勢の神宮にあつての瑞垣の重要性を先に述べたが、当社に於いても聖域を囲む大切な構造物である。また平成の大造営の際に、県の担当者から伺つ

たことであるが、将来的にこの瑞垣も文化財指定される可能性があるとのことである。その屋根はやはり、国宝本殿に相応しく、檜皮葺きで保つていきたくださり、小紙を読まれた皆様方にもご協力を賜れば幸甚に存する次第である。

落雷により杜の樹を焼く

昨年の摂社春日神社例祭の翌日七月二十二日、比較的乾燥している環境下、雷を伴った夕立があつた。本殿から約八十m離れた鎮守の杜の杉の大木に落雷して、樹冠から発火し幹が燃える事態となった。

灯台下暗しで、発見したのは私ではなく、芳野川の対岸に住んでおられる氏子の方が、夜が更けた時間帯に見つけられ、通報して下つたとのことである。当初地上からホースを伸ばして消火活動を試みられたが火元に届かず、翌朝より宇陀市防犯ヘリにより水を投下するという大掛かりなものになった。室生ダムから水を採り十数回往復されたが、洞の中に入つた火種は消えず、結局伐採して水をかけ、落雷してから一日近くを要して鎮火に至つた。

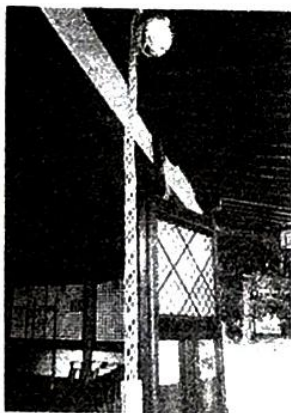
境内に設置された避雷針の高さは、山の稜線に聳える樹木より遥かに低く、所有地の淵に立つ携帯基地局のそれも、生憎遠過ぎて役に立たなかつた模様だ。しかし発見が早く、風も風いであり、酷暑の中での迅速な消火活動によつて、酷い被害はその木一本で済んだ。幸い被害は通報された方と消防署員、そして木の伐採作業を願つた森庄銘木産業株式会社に、改めて感謝したい。これも偏に、水の神様のご神威の賜物と、ひと先ず胸を撫でおろしたところであるが、国宝を有することを殊に鑑み、火の用心の徹底を誓つたところである。

拝殿の鈴：新たに

皆様は、神社の拝殿若しくは中門等に吊るされている鈴は何のためにあるのか、ご存じだろうか？それは参道を進み、神前に到着された参詣者が神様に、その来訪を報せる役割を持つものなのだ。拝殿にある真神や日月旗、当社のないが四神旗などの調度品の中で、この鈴のみがそれから伸びる鈴の緒を介して、参詣者が実際に触れて鳴らし扱うことのできるものである。当社が目立つようになつてきていた。それが昨年、例大祭を一週間後に控えた日に、幸い新調することが叶つた。地元の古市場ご出身の出氏子の西嶋昭文様が、ご子息で私の中学校までの同級生でもある和宣様と連名で奉納下さつたのである。

お陰様で拝殿前は、数年前に新調した賽銭箱と共に、美しく輝く鈴と艶やかな緒が参拝に來られた方々をお迎えしている。その涼やかな鈴の音は、迎える様も速やかにお聴きになられるのである。

西嶋様には今までのものも、ご尊父様より奉納賜つた経緯がある。三代に亘るお志に、謹んで心より御礼申し上げます。次第である。



圓

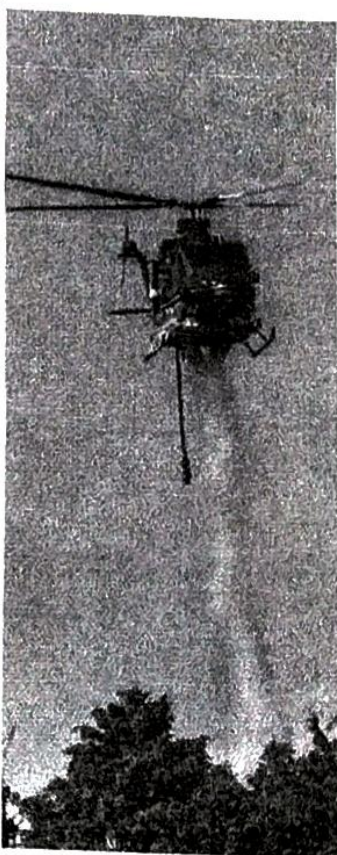
誌

自 令和六年十二月一日
至 令和七年十一月三十日
○令和六年
十二月 一日 月次祭・摂社宗像

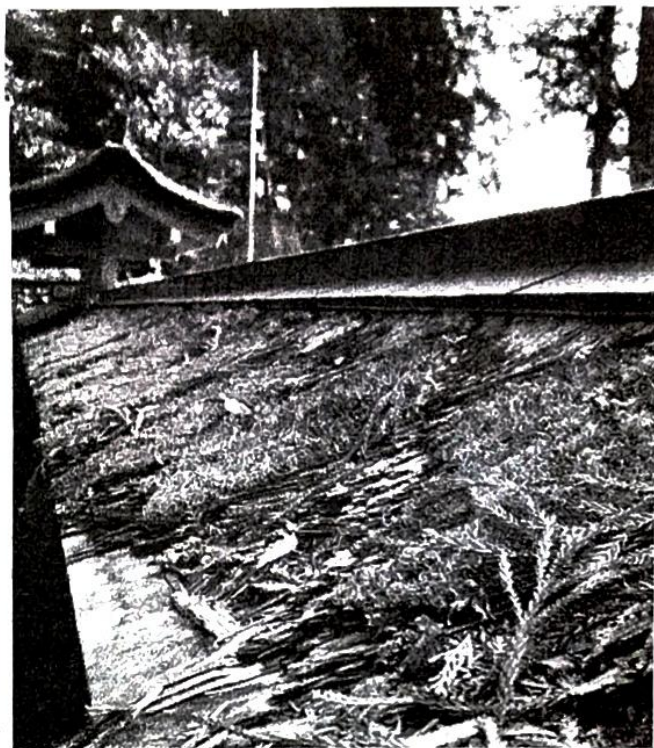
三十一日 師走の大祓式
○令和七年 歳旦祭
一月 一日

十二日 神社例祭亥の子祭
津市上下水道参拝
祈禱(五名)

二十二日 迎春準備(門松立・
夫婦杉注連縄掛け



市防災へりによる社の消火活動



傷が顕著な瑞垣屋根

八月	紀の川市上下水道部・管工事業協同組合参拝祈禱 (二名)	八月	伊勢市上下水道部参拝祈禱(七名)
十一月	宇陀ライオンズクラブ正式参拝祈禱(十四名)	六月	全国清々会総会及び見学会に禰宜出席(京都)
二十六日	新年総会	五日、六日	夏越の大祓に向け茅の輪立作業その後役員会
三十日	奈良県神社庁主催神宮団体参拝に禰宜・役員参加	十五日	三枝祭に禰宜郷社神御子美牟須比命神社役員と共に参列(奈良市・率川神社)
二月	一日 月次祭	十七日	全国天満宮梅風会総会及び参拝観光旅行に禰宜出席(神戸・淡路)
七日	末社恵比須神社例祭(初えびす)	七月	夏越しの大祓式
三月	一日 月次祭	三十日	月次祭
六日	大和宇陀モラロジ事務所参拝祈禱	一日	惣社水分神社への例大祭に向けた挨拶
二五日	伊賀市上下水道協同組合参拝祈禱(九名)	六日	大和宇陀モラロジ事務所参拝祈禱(四名)
四月	一日 月次祭	十六日	撰社春日神社例祭
四日	坂祝町役場水道環境課参拝祈禱(三名)	二十一日	落雷により鎮守の杜の杉の木を焼く(翌日鎮火)
十日	末社金刀比羅神社春季例祭	二十二日	全国春日連合会奈良県支部総会に禰宜出席(春日大社)
二二日	奉賛講 議員安全祈願祭	二十九日	月次祭
五月	一日 月次祭	八月	古市場納涼夏まつり(大盆踊り)
十三日	松阪市指定上下水道事業協同組合参拝祈禱(四名)	一日	月次祭
二二日	津市上下水道協同	九月	月次祭

四月	近畿の式内社を顕彰する会総会に禰宜出席(大阪・住吉大社)
八日・九日	全国春日連合会総会参拝会に禰宜・教化委員(総会のみ)(出席(奈良市))
十日	末社金刀比羅神社秋季例祭
二十三日	例祭打合せ会議
二十七日	交野市水道局参拝祈禱(四名)
十月	月次祭
十二日	拝殿鈴及びその緒を出氏子西峠様が奉納される
十四日	宇陀支部神宮大麻頒布始祭を当社に於いて斎行 禰宜斎主奉仕
十八日	郷社例祭及び祭典準備
十九日	例大祭(神輿渡御祭)
十一月	月次祭
一日	奈良県神社関係者大会に禰宜・責任役員出席(橿原神宮)
十二日	東京都・興真乳業株式会社社長夫妻参拝祈禱
十三日	山口県企業局及び周南地区工水利用者協同組合参拝祈禱(四名)
二十三日	新嘗祭
二十六日	摂社宗像神社例祭(亥の子祭)



元旦一時御神水(若水)を奉献し、氏子総代参列の下に厳かに歳旦祭を執り行い、氏子一同と全国水道事業関係者の無事平穏と事業の発展と安全を祈願いたしました。

吉例の如くお祓いをした御神札は菟田野郵便局開門と同時に発送の手続をいたしました。

「うつくしい水の守り神」宇太水分神社の御神札を事業所の清らかな高いところにお祀りし、日々事業の安全と豊水をお祈りいたしました。

御神札を年ごとに新しくお改めするのは、神は清浄を第一とすること、また若返えられた神の強いきらみを仰いで一層のご加護を願うという、祖先より受け継がれてきた伝統的信仰にもとづくものです。

一年間お守りいただいた古い御神札は感謝の心をこめて当社へお納め下さい。又は最寄りの神社へ納められても結構です。

おねがい

正式参拝祈禱ご希望の方は、その日時を電話等で一報下さる様おねがいたします。神職が不在の時もあり、ご迷惑をおかけすることになります。是非ともよろしくおねがいたします。

TEL〇七四五・八四二・六一三

編輯後記

昨年趣味のランニングをしていて、師走になってもあるポイントで向日葵が枯れずに咲いている光景があった。大相撲で初優勝を果たした安青錦は、祖国のウクライナに勇気を齎しただろうが、この花も寒い中早期の和平を祈っているかのようだった。昨年は戦後八十年であった。当社の例大祭、現在十月第三日曜日であるが、本来祭日は二十一日である。昭和十八年のその日、学徒出陣の壮行会が雨の降りしきる中で、神宮外苑に於いて肅々と行われていた。恐らく当社では、質素に祭儀のみが斎行されていただろう。と推察される。本日(十九日)は、昭和六十三年に亡くなった、十七代宮司の祖父の命日にあたると。先の大戦ではピルマに出征し、衛生兵として高橋軍医を補佐した。祖父は、御社紋の沢瀉がある御神燈の幻に導かれ、落命の淵から救われた。と、生前、回想していた。ウクライナや中東地域の戦地の惨状を想うと、平和の中でお祭りできることの泰さを、心に刻まねばならないと思う。敬神生活の綱領の三番目の候に：大御心をいただき、むつび和らぎ、国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること、とある。云々と、私は、祭典後の斎主挨拶で申し上げた。昨年の終盤より、日中関係は俄かに緊迫の度を心ならずも増している。当社本殿第三殿には、その周代の伝説に元づく、琴高仙人が彫刻された墓股がある。それは彼の国の文化を採り入れた先人がいた証しであろう。民族としての先輩である中国との和が回復することを、願う新春である。

◇神徳宣揚奉讃講ご加入のご案内◇

例年多数のご加入をいただき厚く御礼申し上げます。
当神社では月次祭に水道事業の安全操業と豊水を祈願いたしております。

◎年間講費 1口 2千円以上随意

ご送金は振替用紙ご利用又は銀行振込み(南都銀行 菟田野支店
店番290 普通口座031732 宇太水分神社神徳宣揚奉讃講)
にておねがいたします。